

高温に対する農作物の技術対策

令和2年4月27日
農林水産部担い手支援課

令和2年4月20日14時30分に銚子地方气象台から高温に関する早期天候情報が発表されました。発表内容によると、関東地方は4月29日ごろから気温が平年よりかなり高くなる（5日間平均気温平年差+2.3℃以上）ことが見込まれます。つきましては、以下の事項に注意し、農作物の管理に万全を期してください。

1 施設野菜、花き

- (1) 施設栽培では側面を開放するとともに、天窓の開閉や換気扇等を活用した換気を積極的に行う。また作物の光要求性に応じて遮光カーテン等を使用し、温度上昇の抑制を図る。遮光カーテン等がない場合は、屋根への遮光塗布剤の塗布は有効である。循環扇は局所的な高温・高湿空気の滞留を防ぎ、室内温度・湿度の均一化を図られるとともに、作業快適性の向上が期待されるため、積極的に動かす。
- (2) ハウス内の急激な温度上昇後に一気に換気を行うと葉や生長点のしおれ、葉焼けなどの障害が発生しやすい。こまめな換気や遮光による温度管理の徹底を図るほか、積極的にかん水をして乾燥を防ぐ。
- (3) 作物の生長点等がしおれた場合は速やかに水を噴霧し、回復を促す。なお、しおれた状態での薬剤散布や葉面散布は薬害の発生が懸念されるため控える。
- (4) アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類等の害虫の発生が早まるため、早期発見、早期防除を徹底する。

2 露地野菜

- (1) 地温抑制のため稲わらマルチの活用や畝間かん水により土壌水分の保持を図る。
- (2) 葉茎菜類では、チップバーンを防止するため、カルシウム剤の葉面散布を行う。
- (3) 果菜類では、不良果の摘果等、着果負担の軽減を図る。
- (4) さつまいも苗などのトンネル栽培では、高温になってから一気に換気を行うと、葉焼けを助長する恐れがあるので、早めに少しずつ換気を開始する。

3 果樹

- (1) 高温に加え少雨条件が続くと、樹勢や果実肥大に影響する恐れがあるため、刈草やわらマルチにより、土壌の乾燥を防止する。特に育成中の苗木は根量が少なく、干ばつによる生育障害を受けやすいので、地表面が乾いているようであれば、こまめにかん水を行う。
- (2) 草生栽培の園で草丈の高い園では草からの蒸散を防ぐため、草刈りを行う。
- (3) 日射量が多くなるため、稲わら等を利用し、主枝の日焼け対策を実施する。特に苗木では、対策を徹底する。
- (4) 害虫については、高温・乾燥が続くとハダニ類が急増しやすくなるため、常時観察し、発生が認められた場合は初期防除を徹底する。

4 水稻

- (1) 育苗ハウス内の温度上昇により細菌性苗立枯病が発生しやすくなるため、十分な換気とかん水によりハウス内の温度上昇を防ぐ。また、苗が伸びやすくなるため老化苗になる前に移植する。
- (2) 高温時の除草剤散布は薬害が発生しやすいため、高温時の散布を避ける。また、薬害の要因となる重複散布やムラを防止するため風の強い場合は散布を避ける。
- (3) 水温の上昇に伴いスクミリンゴガイの活動が活発になり、移植苗の食害が予想されるため、対策として移植後2～3週間まで4 cm以下の浅水管理とし、必要に応じて薬剤と組み合わせ早期の防除対策を徹底する。